

科目名	整形外科学					
科目名(英)	Orthopedic Surgery					
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	九州大学整形外科教室	
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	医師として病院勤務	
対象学科・学年	理学療法学科・作業療法学科 夜間部 2年					
授業概要	整形外科の基礎知識、各種治療法、整形外科疾患について理解する。整形外科疾患とリハビリテーションとの関わりについて理解し、臨床実習で必要な知識を習得する。					
授業形式	講義:	○	演習:		実習:	
					実技:	
	※ 主たる方法:○ その他:△					
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○	○				整形外科疾患に関する基礎知識について説明できる。
	○	○				整形外科における各疾患の成り立ちや臨床像を説明できる。
	○	○				整形外科疾患の日常生活上での身体的制約が説明できる。
	○	○				リハビリテーションにおいてセラピストが関わる整形外科疾患の治療実践を説明できる。
テキスト・教材 参考図書	教科書:「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 整形外科学」(最新版) 医学書院					
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示
	1	整形外科概論 (整形外科とは、運動器の評価及び検査法、治療法)				テキストを用いた復習
	2	骨折 1 (上肢の骨折:受傷機転、病態、治療)				テキストを用いた復習
	3	骨折 2 (体幹・下肢の骨折:受傷機転、病態、治療)				テキストを用いた復習
	4	脊髄損傷				テキストを用いた復習
	5	関節における外傷性疾患 (捻挫(TFCC)、脱臼(肩・肘・股関節など))				テキストを用いた復習
	6	末梢神経における外傷性疾患 1(外傷性疾患各論)				テキストを用いた復習
	7	末梢神経における外傷性疾患 2(絞扼性神経障害・その他)				テキストを用いた復習
	8	腱・靭帯における外傷性疾患(筋・腱・靭帯の概論、腱板断裂、手の腱損傷)				テキストを用いた復習
	9	スポーツ障害(スポーツ障害の概論、急性・慢性のスポーツ外傷)				テキストを用いた復習
	10	熱傷、切断と離断(熱傷の病態、治療、切断・離断の原因、部位、義肢、その他)				テキストを用いた復習
	11	先天性骨・関節疾患(代表的な疾患とその特徴)				テキストを用いた復習
	12	循環障害と壊死性疾患(骨壊死、骨端症など)				テキストを用いた復習
	13	骨・軟部腫瘍				テキストを用いた復習
	14	神経・筋疾患(脳性麻痺、神経麻痺)				テキストを用いた復習
	15	脊椎の疾患(脊柱の変形、奇形、椎間板ヘルニア)				テキストを用いた復習
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
	定期試験(筆記)	◎	◎			
	レポート					
	発表					
	発表・作品					
履修上の注意						

科目名	神経内科学Ⅱ						
科目名(英)	Neurological Medicine Ⅱ						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	片伯部 裕次郎		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	医師として病院勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部 2年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業療法が関わる障がい、どのような疾患から起因するかを知る。</li> <li>・神経内科疾患の成り立ちを知ること、患者分析に必要な生理学的見解が出来るようになる。</li> <li>・神経内科疾患の症状を理解することで、作業療法治療上でのリスク管理を理解する。</li> </ul>						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
	※ 主たる方法:○ その他:△						
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				神経内科疾患の現状を説明できる。	
	○	○				神経内科における各疾患の特徴が説明できる。	
	○	○				神経内科疾患の日常生活上での身体的制約が説明できる。	
	○	○				作業療法士が関わる神経内科疾患の治療実践を説明できる。	
	○	○		○		作業療法の中で神経内科疾患治療の必要性を説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学 医学書院 PT・OT基礎から学ぶ神経内科学ノート 医歯薬出版						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	頭蓋内圧亢進症と脳ヘルニア、水頭症				教科書で予習しておく。	
	2	脳血管障害Ⅰ、(疫学、分類、合併症、症状、治療)				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	3	脳血管障害Ⅱ、診断(臨床症状による)、リハビリ訓練				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	4	認知症、記憶障害				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	5	脳腫瘍と外傷性脳損傷				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	6	神経内科と脊髄疾患(神経内科領域、脊髄損傷)				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	7	変性疾患、脊髄小脳変性症関連(小脳症状解説)				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	8	変性疾患、運動神経変性(筋萎縮性側索硬化症など)				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	9	脱髄性疾患、多発性硬化症				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	10	パーキンソン病と失調症、不随意運動				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	11	単神経麻痺、末梢性ニューロパチー、ギランバレー症候群				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	12	筋疾患、筋炎、筋ジストロフィー症				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	13	重症筋無力症、周期性四肢麻痺、代謝性疾患				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	14	神経内科における感染症				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	15	まとめ					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
	レポート						
	発表						
	発表・作品						
履修上の注意							

科目名	小児科学						
科目名(英)	Pediatrics						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	九州大学 小児科		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	医師として病院勤務		
対象学科・学年	理学療法学科・作業療法学科 夜間部 2年						
授業概要	小児科学の基礎知識の習得						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
	※ 主たる方法:○ その他:△						
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				新生児・未熟児の疾患について説明できる	
	○	○				先天異常と遺伝病について説明できる	
	○	○				小児期の神経系疾患、筋・骨格系疾患について説明できる	
	○	○				小児期の循環器・呼吸器・消化器疾患について説明できる	
	○	○				小児期の消化器・内分泌・代謝疾患について説明できる	
テキスト・教材 参考図書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学:医学書院						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	1章:小児の発達				教科書で範囲の予習をしておく。	
	2	1章 2章:小児科概論・治療				教科書で範囲の予習をしておく。	
	3	3章:新生児・未熟児疾患				教科書で範囲の予習をしておく。	
	4	4章:先天異常と遺伝病				教科書で範囲の予習をしておく。	
	5	5章:神経・筋・骨系疾患 その1				教科書で範囲の予習をしておく。	
	6	5章:神経・筋・骨系疾患 その2				教科書で範囲の予習をしておく。	
	7	6章 7章:循環器・呼吸器疾患				教科書で範囲の予習をしておく。	
	8	8章:感染症				教科書で範囲の予習をしておく。	
	9	9章:消化器疾患				教科書で範囲の予習をしておく。	
	10	10章:内分泌・代謝疾患				教科書で範囲の予習をしておく。	
	11	11章 12章 14章:血液疾患 免疫・アレルギー疾患・膠原病 腫瘍性疾患				教科書で範囲の予習をしておく。	
	12	13章 17章:腎・泌尿器・生殖器疾患、眼科・耳鼻科的疾患				教科書で範囲の予習をしておく。	
	13	15章 16章:心身症・神経症など 重症心身障害児				教科書で範囲の予習をしておく。	
	14	まとめ				教科書で範囲の予習をしておく。	
15	まとめ						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎					100%
	レポート						
	発表						
	発表・作品						
履修上の注意							

科目名	精神医学Ⅱ						
科目名(英)	Psychiatry Ⅱ						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	島田 洋		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	医師として病院勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部 2年						
授業概要	精神医学領域の疾患および治療法を理解する。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				精神医学領域の疾患について説明できる。	
	○	○				精神医学領域の治療法について説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	標準理理学療法学 作業療法学 専門基礎分野 精神医学:医学書院						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	てんかん				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	2	感情障害①				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	3	感情障害②				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	4	神経性障害①				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	5	神経性障害②				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	6	摂食障害・睡眠障害				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	7	パーソナリティ障害				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	8	知的障害・発達障害				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	9	治療①				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	10	治療②				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	11	法律・福祉				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	12	まとめ				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	13	まとめ				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	14	まとめ				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
15	まとめ						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	◎				100%
	レポート						
	発表						
	発表・作品						
履修上の注意							

科目名	臨床医学講座 I						
科目名(英)	Clinical medicine course I						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	中山 仁		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	作業療法士として病院で勤務		
対象学科・学年	作業療学科 夜間部 2年生						
授業概要	臨床医学の中で整形外科をはじめ、神経内科学や精神医学を中心に、国家試験の該当問題を解答できるように知識を身につける。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		整形外科の疾患について、説明することや国家試験の問題を解答できる	
	○	○		○		神経内科学の疾患について、説明することや国家試験の問題を解答できる	
	○	○		○		精神医学の疾患について、説明することや国家試験の問題を解答できる	
テキスト・教材 参考図書	・病気がみえる ⑪運動器・整形外科・病気がみえる ⑦脳・神経・他、オリジナル資料						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション 整形、神経内科、精神科の疾患の概要				教科書の予習をしておく。	
	2	整形外科学 1)骨折 上肢 前腕 手指				教科書の予習及び復習をしておく。 授業後に確認テスト実施(成績には含まれない)	
	3	整形外科学 2)骨折 体幹 下肢 足趾				教科書の予習及び復習をしておく。 授業後に確認テスト実施(成績には含まれない)	
	4	整形外科学 2)関節リウマチ RA				教科書の予習及び復習をしておく。 授業後に確認テスト実施(成績には含まれない)	
	5	整形外科学 2)関節リウマチ OA				教科書の予習及び復習をしておく。 授業後に確認テスト実施(成績には含まれない)	
	6	整形外科学 3)脊髄損傷 脊椎損傷				教科書の予習及び復習をしておく。 授業後に確認テスト実施(成績には含まれない)	
	7	整形外科学 3)脊髄損傷 脊髄損傷				教科書の予習及び復習をしておく。 授業後に確認テスト実施(成績には含まれない)	
	8	神経内科学 1)CVA(脳血管障害) 脳出血				教科書の予習及び復習をしておく。 授業後に確認テスト実施(成績には含まれない)	
	9	神経内科学 1)CVA(脳血管障害) 脳梗塞				教科書の予習及び復習をしておく。 授業後に確認テスト実施(成績には含まれない)	
	10	神経内科学 2)パーキンソン病 概要				教科書の予習及び復習をしておく。 授業後に確認テスト実施(成績には含まれない)	
	11	神経内科学 2)パーキンソン病 評価、治療など				教科書の予習及び復習をしておく。 授業後に確認テスト実施(成績には含まれない)	
	12	神経内科学 3)筋萎縮性側索硬化症				教科書の予習及び復習をしておく。 授業後に確認テスト実施(成績には含まれない)	
	13	精神医学 1)統合失調症				教科書の予習及び復習をしておく。 授業後に確認テスト実施(成績には含まれない)	
	14	精神医学 2)感情・気分障害(うつ病/躁うつ病)				教科書の予習及び復習をしておく。 授業後に確認テスト実施(成績には含まれない)	
15	国家試験問題 まとめ				総合的理解の復習、解釈を行う。		
評価方法	・定期試験(筆記)を実施。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎		◎		90%
	小テスト						
	宿題・レポート	○	○		○		10%
発表・作品							
履修上の注意	地域リハビリテーションに関わる職種は、状況により変更があります						

科目名	リハビリテーション研究法						
科目名(英)	Research method in Rehabilitation						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	小野 仁 中山 仁		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	作業療法士として病院勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部 2年						
授業概要	本科目は、臨床研究で求められる問題提起や目的、仮説設定、考察の仕方などについて学びます。実際のプロセスなどを研究例(事例など)から学び、研究計画を立て、遂行、発表するために必要な基礎的な知識・技能を学びます。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				研究手順を理解することができる	
	○	○				文献を検索し、管理することができる	
	○	○		○		文献を抄読し、発表することができ、発表に興味や関心を示した態度で参加できる	
	○	○		○		事例研究について理解することができ、発表に興味や関心を示した態度で参加できる	
	○	○				研究法への興味や意欲、関心を深める	
テキスト・教材 参考図書	作業療法士のための研究法入門 三輪書店						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	研究とは何か 論文紹介 課題①「テーマ探し」			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 「序」を読む 課題①「テーマ探し」		
	2	研究をするということ 作業療法と研究 研究疑問と研究の様式 課題 ②「仮説」:自分の疑問			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 課題②「仮説」		
	3	研究の倫理と管理			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業資料のまとめを復習しておく。		
	4	研究の流れ 研究期間の設定 文献レビュー			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業資料のまとめを復習しておく。		
	5	研究の流れ 研究計画の作成			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業資料のまとめを復習しておく。		
	6	文献検索の方法			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業資料のまとめを復習しておく。		
	7	文献の管理と活用法			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業資料のまとめを復習しておく。		
	8	文献抄読会 演習A資料作成			検索した文献を抄読し、発表資料をまとめる。 課題③「要約:アブストラクト作成」		
	9	文献抄読会 演習A発表			文献抄読 発表A-1		
	10	文献抄読会 演習A発表			文献抄読 発表A-2		
	11	文献的研究や理論的研究、調査研究、実験的研究、シングルケース研究、事例研究			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業資料のまとめを復習しておく。		
	12	事例研究 (シングルケース研究、事例研究)演習B資料作成			検索した文献を抄読し、発表資料をまとめる。 「文献抄読発表資料」		
	13	事例研究 (シングルケース研究、事例研究)演習B発表			文献抄読 発表B-1		
	14	事例研究 (シングルケース研究、事例研究)演習B発表			文献抄読 発表B-2		
15	国家試験「研究に関連する問題解説」 デザインと尺度、検定方法、他 まとめ			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業資料のまとめを復習しておく。			
評価方法	(1)課題①「テーマ」、②「仮説」、③「要約」(2)演習:「文献抄読A,Bの発表」※資料展も含む。を実施。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題作成	◎	◎				70%
	発表	◎	◎		◎		30%
履修上の注意	「文献抄読 演習A発表」及び「事例研究 演習B発表」は、作成時間を調整						

科目名	基礎作業学実習Ⅱ						
科目名(英)	Occupation Based Overview ; Practice						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	福井 綾		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院にて作業療法士として勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部 2年						
授業概要	1. 作業療法における「作業」について教授する。 2. 作業分析について学び、実際に体験し発表を行う。 3. 「指導法」について学び、「作業の指導」を実際に体験する。 4. 作業の治療的な適用のしかたを学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					作業療法における「作業」について説明ができる	
	○	○				作業分析を実際に行うことによって、作業分析の理解をより深める事が出来る	
	○	○				学生同士で指導法を実施する事で、受ける側も理解でき、臨床に活かす事が出来る。	
	○	○				作業療法の臨床での治療的介入を理解する事が出来る。	
テキスト・教材 参考図書	長崎重信 監修:作業学, 作業療法学ゴールド・マスター・テキスト2. メジカルビュー社, 2010. 参考文献:吉川ひろみ:「作業」ってなんだろう(作業科学入門).医歯薬出版, 2008. 日本作業療法士協会:作業・その治療的応用 改訂第2版.協同医書出版社, 2003. 古川宏:作業活動実習マニュアル.医歯薬出版.2012. 小林夏子・福田恵美子:基礎作業学第2版(標準作業療法学・専門分野).医学書院, 2012. 石川齊, 古川宏 他:図解作業療法技術ガイド第3版.文光堂, 2011.						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	作業療法における作業とその意義			配布プリントの復習 まとめプリント配布		
	2	作業の治療応用とその効果			配布プリントの復習 まとめプリント配布		
	3	作業遂行過程における評価(作業分析について)			配布プリントの復習 1年次「基礎作業学実習Ⅰ」の資料・レポート復習		
	4	作業分析実習(グループ課題)			必要文献の準備		
	5	作業分析実習(グループ課題)			必要文献の準備		
	6	作業分析実習(グループ課題)			必要文献の準備		
	7	作業分析実習(グループ課題)			レポート提出作成の準備		
	8	作業分析まとめ・小テスト			レポート作成 小テスト範囲を復習		
	9	臨床場面での作業活動の支援(対象者への説明、指導法)			レポート提出 まとめプリント配布		
	10	指導法体験実習(ペアで実習)			実習の必要物品の準備 指導計画書の作成		
	11	指導法体験実習(ペアで実習)			実習の必要物品の準備 指導計画書の作成		
	12	指導法体験実習 まとめ			レポート持参		
	13	治療への応用の実際・現場での様子①			レポート提出、配布プリントの復習 まとめプリント配布		
	14	治療への応用の実際・現場での様子②			レポート提出、配布プリントの復習		
15	まとめ・小テスト			全授業内配布プリント持参 小テスト範囲を復習			
評価方法	(1)授業の中で小テストを2回実施する。(2)レポートを2回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				70%
	小テスト	◎	◎				10%
	レポート	◎	◎				20%
履修上の注意							

科目名	作業療法管理学Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者			
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部2年						
授業概要	作業療法業務の管理運営とそのための基本的知識を学習する。また、作業療法士が後進を育てる為に重要な臨床実習の管理運営・指導法について学習する。						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				作業療法士の職業倫理と職能団体としての意義と役割を説明できる。	
	○	○				作業療法部門の業務管理とチームマネジメントを説明できる。	
	○	○				作業療法における安全管理を、医療事故などの事例を通して説明できる。	
	○	○				インシデント・アクシデント報告書の内容と書き方を説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	テキスト:大庭潤平・編著:作業療法管理学入門. 医歯薬出版株式会社, 2018. 参考文献:金谷さとみ・高橋仁美・編:リハビリテーション管理・運営実践ガイドブック. メジカルビュー社, 2018						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	コースガイダンス・作業療法の法律と定義				事前学習	
	2	作業療法士の職能団体としての意義と役割				確認テスト 事前学習	
	3	作業療法士の職業倫理				確認テスト 事前学習	
	4	作業療法部門の環境面と経済性				確認テスト 事前学習	
	5	作業療法部門の人材育成について				確認テスト 事前学習	
	6	作業療法部門の情報・時間・ストレスマネジメント				確認テスト 事前学習	
	7	作業療法実践のための業務管理				確認テスト 事前学習	
	8	医療におけるリスクマネジメントと医療事故				確認テスト 事前学習	
	9	ヒューマンエラーについて				確認テスト 事前学習	
	10	作業療法におけるリスクマネジメント				確認テスト 事前学習	
	11	インシデントアクシデント報告書とは				確認テスト 事前学習	
	12	インシデントアクシデント報告書演習				前回の授業内容の復習	
	13	作業療法臨床実習の理解と管理体制				確認テスト 事前学習	
	14	作業療法のキャリア(ワークライフバランスについて)				確認テスト 事前学習	
15	まとめ				全授業内容の資料持参		
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				70%
	小テスト	○	○				30%
	宿題・レポート						
	発表・作品	○	○				
履修上の注意							



科目名	作業療法評価学 I						
科目名(英)	Introduction to OT Assessment I						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	老川 良輔		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院に作業療法士として勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部 2年生						
授業概要	リハビリテーションにおける評価とは何かを学習する。 その中でも、面接・観察、その記録方法の概要を学習する。 作業に焦点を当てた評価ツールを用いて、作業療法における面接・観察の視点を学習する。						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					作業療法における評価の視点を説明できるようになる。	
			○	○		作業療法面接評価であるCOPM・OSA-IIを使用し、作業上の問題を聞き出せるようになる。	
			○	○		作業療法観察評価であるACIS・AMPSを用いて観察視点を増やすことができる。	
	○	○				人の作業上の問題が生じている理由を、人間作業モデルの枠組みを使って説明することができる。	
	○				各評価の名称、対象、目的、使用方法を理解することができる		
テキスト・教材 参考図書	配布パワーポイント資料 ①COPM/AMPSスターティングガイド、②OSA使用者手引、③ACIS使用者手引						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	評価の意味と目的・・・作業療法評価とは何のために行うのか？			まとめプリントを使用して復習しておくこと		
	2	面説について／観察について			まとめプリントを使用して復習しておくこと		
	3	対象者の作業上の問題を知るための評価①(COPM概要)			まとめプリント/Classiを使用して復習しておくこと		
	4	COPM実施方法と演習			小テストを実施するため、授業資料で復習して、小テストの準備を行うこと		
	5	COPM評価演習			COPMの評価演習を行うため、授業資料を準備しておくこと		
	6	対象者の作業上の問題を知るための評価②(OSA概要)			まとめプリント/Classiを使用して復習しておくこと		
	7	OSA実施方法と演習			小テストを実施するため、授業資料で復習して、小テストの準備を行うこと		
	8	OSA評価演習			OSAの評価演習を行うため、授業資料を準備しておくこと		
	9	対象者の作業遂行の質を知るための評価(AMPS概要)			まとめプリント/Classiを使用して復習しておくこと		
	10	AMPS運動技能項目と演習			小テストを実施するため、授業資料で復習して、小テストの準備を行うこと		
	11	AMPS処理技能項目と演習			AMPSの評価演習を行うため、授業資料を準備しておくこと		
	12	対象者のコミュニケーションと交流技能を知るための評価(ACIS概要)			まとめプリント/Classiを使用して復習しておくこと		
	13	ACISを使用した事例			小テストを実施するため、授業資料で復習して、小テストの準備を行うこと		
	14	ACIS技能項目と演習)			ACISの評価演習を行うため、授業資料を準備しておくこと		
15	授業全体のまとめ			全てのテキスト/資料/自分の作成したレポートを用意しておくこと			
評価方法	(1)授業の中で小テストを4回実施する。(2)レポートを3回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト		◎				40%
	宿題・レポート	◎		◎	○		60%
	発表・作品						
履修上の注意							

科目名	装具学						
科目名(英)	Orthotics						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	栗木 康介(福岡整形外科病院)		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	作業療法士として病院勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部 2年						
授業概要	1.リハビリテーションにおける装具療法の目的と作業療法士の役割を理解する。 2.各種装具の目的と分類を知ることができる。 3.上肢疾患に対する装具の適応と役割、構造的特徴について理解する。 4.スプリント製作実習を通して製作手順を知り、チェックアウトもできるようになる。						
授業形式	講義:	○	演習:	○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				装具療法における作業療法士の役割を理解することができる	
	○	○				各種装具の特徴と適応を理解することができる	
	○	○				スプリントを製作することができ、チェックアウトもできるようになる	
テキスト・教材 参考図書	教科書:1)大庭潤平:義肢装具と作業療法 評価から実践まで. 医歯薬出版株式会社 参考文献:1)大嶋伸雄:身体障害領域の作業療法.中央法規、2)日本作業療法士協会:作業療法技術学1 義肢装具学.協同医書出版社、3)清水順市:リハビリテーション 義肢装具学. MEDICAL VIEW						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	コースガイダンス					
	2	装具学総論				授業内容に該当するテキスト、資料を復習する。	
	3	下肢装具総論				授業内容に該当するテキスト、資料を復習する。	
	4	脳血管障害における下肢装具				授業内容に該当するテキスト、資料を復習する。	
	5	体幹装具				授業内容に該当するテキスト、資料を復習する。	
	6	肩および肘関節装具				授業内容に該当するテキスト、資料を復習する。	
	7	末梢神経損傷におけるスプリント療法①(総論)				授業内容に該当するテキスト、資料を復習する。	
	8	末梢神経損傷におけるスプリント療法②(各論)				授業内容に該当するテキスト、資料を復習する。	
	9	スプリント製作実習オリエンテーション				授業内容に該当するテキスト、資料を復習する。	
	10	スプリント製作実習①(指スプリント)				授業内容に該当するテキスト、資料を復習する。	
	11	スプリント製作実習②(短対立スプリント)				授業内容に該当するテキスト、資料を復習する。	
	12	スプリント製作実習③(短対立スプリント)				授業内容に該当するテキスト、資料を復習する。	
	13	スプリント製作実習④(カックアップスプリント)				授業内容に該当するテキスト、資料を復習する。	
	14	スプリント製作実習⑤(カックアップスプリント)				授業内容に該当するテキスト、資料を復習する。	
	15	事例検討				授業内容に該当するテキスト、資料を復習する。	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
	レポート						
	発表						
	発表・作品						
履修上の注意							

科目名	地域作業療法学 I						
科目名(英)	Community Based Occupational Therapy I						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	中山 仁		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	作業療法士として病院で勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部 2年生						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域リハビリテーションについて学ぶ。</li> <li>・地域リハビリテーションに関わる様々な職種の話を知る。</li> <li>・地域包括ケアシステムと作業療法士の役割を知る。</li> </ul>						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		・地域リハビリテーションと作業療法士の役割を説明することができる。	
	○	○		○		・地域における多職種の業務を説明することができる。	
	○	○		○		・地域における多職種と作業療法士の協業について説明することができる。	
	○	○		○		・地域包括ケアシステムを説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	作業療法学全書 改訂第3版 第13巻 地域作業療法学 日本作業療法士協会 監修 太田睦美 編集 協同医書出版 2009						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	地域リハビリテーションの流れ、ノーマライゼーション				講義内容を復習しノートを整理する。	
	2	地域リハビリテーションと維持期のリハビリテーション				講義内容を復習しノートを整理する。	
	3	地域リハビリテーションに関わる職種-介護支援専門員				レポート①提出。(15%)	
	4	地域リハビリテーションに関わる職種-介護支援専門員				講義内容を復習しノートを整理する。	
	5	地域リハビリテーションに関わる職種-社会福祉士				レポート②提出。(15%)	
	6	地域リハビリテーションに関わる職種-社会福祉士				講義内容を復習しノートを整理する。	
	7	地域リハビリテーションに関わる職種-作業療法士				レポート③提出。(15%)	
	8	地域リハビリテーションに関わる職種-作業療法士				講義内容を復習しノートを整理する。	
	9	地域リハビリテーションに関わる職種-看護師				レポート④提出。(15%)	
	10	地域リハビリテーションに関わる職種-看護師				講義内容を復習しノートを整理する。	
	11	地域リハビリテーションに関わる職種-理学療法士				レポート⑤提出。(15%)	
	12	地域リハビリテーションに関わる職種-理学療法士				講義内容を復習しノートを整理する。	
	13	通所サービス施設についてとその実際				通所サービス施設のレポートを報告資料にまとめておく。	
	14	地域包括ケアシステム				通所サービス施設のレポートを報告資料にまとめておく。	
15	まとめ				レポート①～⑤をもとにグループディスカッションと発表を行う。(資料及び発表など25%)		
評価方法	成績処理方法: (1)講義レポートを5回実施。(2)発表を1回実施。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト						
	宿題・レポート	◎	◎		◎		90%
発表・作品	○	○		◎		10%	
履修上の注意	地域リハビリテーションに関わる職種は、状況により変更があります						

科目名	見学実習						
科目名(英)	Clinical tour training						
単位数	1単位	時間数	45時間	担当者	作業療法学科教員 臨床実習指導者		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	作業療法士として病院勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部 2年						
授業概要	臨床実習指導者の指導のもと、作業療法士として求められる倫理観や基本的態度を身につける。作業療法の評価や治療場面を見学し、作業療法士の臨床思考過程、医療現場におけるコミュニケーションの重要性とその技能について学習する。また、見学実習で経験したことについても報告する。						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○			○		臨床実習指導者の指導のもと、作業療法士に求められる倫理観や基本的態度を習得できる。	
		○		○		多職種連携における作業療法部門の役割と特色を理解でき、多職種の役割についても理解できる。	
		○	○	○		多くの作業療法実践場面を見学し、その臨床思考過程を聞いて理解できる。	
		○		○		見学実習で得た知識や経験を他者と共有し、他者の経験から多様な視点、考え方を学ぶことができる。	
テキスト・教材 参考図書	1)見学実習ガイダンス 2)PT・OTのための臨床技能とOSCE(コミュニケーションと介助・検査測定編)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1						
	2						
	3	●見学実習事前セミナー:1月30日(月)～2月10日(土)					
	4	・実習における感染対策やリスク管理に関する講義を実施する。 ・見学実習に必要な知識・技術について講義等を実施する。					
	5	●見学実習:2月13日(月)～2月25日(土)					
	6	* 施設の就業規定に応じて上記期間内で1週間実施(5日/週を基本とする)					
	7	●見学実習事後セミナー:2月27日(月)～3月4日(土)					
	8	・各施設で学んだことを共有するグループワークと実習内容の発表を実施する。 ・見学実習提出課題について担当教員よりフィードバックを受ける。					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	実習成績報告書に基づく臨床実習指導者による採点と学校への提出物、実習後セミナーでの報告、態度・参加状況などを総合的に判断して100点満点で判定する。 成績評価基準はA(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	実習課題の遂行		◎	◎	◎		60%
	提出課題		◎		◎		20%
	発表		◎		◎		20%
履修上の注意							